

経済政策

令和5年11月19日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

経済における経済のヒエラルキーは存在する。資本はその背後でそれをコントロールするのである。

先端産業の利益性と、先端工場施設における永続的な生産性、投資運用における利益は、国家をそのヒエラルキーのトップに与える。

これらは産業の構造が存在するのであり、その先端技術やシステムは、自由貿易において独占するのである。

これらは国家における経済政策が、その先端産業の育成と産業構造の転換を明確に行う必要があることを意味するものである。

先端産業は、大学における学術基盤を求められるものであり、その整備は長期的に先端性の構築を実現できるものである。

また、IT 産業の育成や、半導体産業の大規模の育成など、長期的視野において、これらは未来を与える正しい施策なのである。

これらはレーガノミクスという基盤が今日のアメリカの隆盛を与えることは理解すべきである。

これらは先端性が有する世界におけるプレゼンスや、利益性を理解する必要があり、先端工場における高い生産性は自由貿易システムにおいて、貿易の赤字を解消できるのである。

これらは現状の双子の赤字は深刻な問題であり、将来的に国家の破綻を得ることは必ず存在するのである。

これらは現状の為替価値において、国内産業が先端工場の建設や、新規先端産業の育成、航空機産業の構築や、基幹産業における次世代基準における整備など、自由貿易システムにおいて、国家が新たな自己基盤への転換をこなうことは、国家が未来を得る選択なのである。